

再評価結果(令和7年度継続箇所)

担当課:都市局 街路交通施設課

担当課長名:青柳 太

事業名	連続立体交差事業 JR山陽本線(東加古川駅付近)	事業区分	連続立体交差	事業主体	兵庫県
起終点	自:兵庫県加古川市平岡町 至:兵庫県加古川市野口町			延長	約3.7km
事業概要					
<p>本事業は、JR山陽本線の東加古川駅付近の約3.7kmにおいて、鉄道を立体化することにより、8箇所の踏切(うち開かずの踏切1箇所、うち自動車ボトルネック踏切1箇所)を除却し、都市交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業である。</p>					
— 年度事業化		— 年度都市計画決定 (— 年度変更)		— 年度用地着手	
— 年度工事着手					
全体事業費	約550億円	事業進捗率	— %	供用済延長	— km
計画交通量	248,358台時/日(踏切交通遮断量)				
費用対効果分析	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体)	総便益 (残事業)/(事業全体)	基準年
	1.5		— / 287億円	/ 433億円	
	(参考) 2.5 [2%]	5.6%	事業費: / 286億円	移動時間短縮便益: / 407億円	令和6年
	3.2 [1%]		維持管理費: / 0.6億円	走行経費減少便益: / 25億円	
	(残事業)	(残事業)	更新費: / 一億円	交通事故減少便益: / 0.8億円	
(参考) — [2%]	— %	感度分析			
(参考) — [1%]		(事業全体)		(残事業)	
		交通量	B/C=1.4~1.5(±10%)	交通量	B/C=—~—(±10%)
		事業費	B/C=1.4~1.7(±10%)	事業費	B/C=—~—(±10%)
		事業期間	B/C=1.4~1.6(±20%)	事業期間	B/C=—~—(±20%)
事業の効果等					
<p>①踏切を除却することにより、円滑かつ安全な交通の確保や踏切事故の解消を図る。 ②鉄道の高架化にあわせて南北幹線道路を整備することにより、緊急輸送道路間の連絡を強化し、災害時の救援物資の搬送等、都市防災機能の強化を図る。 ③東加古川駅を文教地区の玄関口として、駅前広場の再整備や文教地区との連携強化などにより、人が集まるまちを実現し、地域の活性化を図る。</p>					
関係する地方公共団体等の意見					
加古川市都市マスタープラン(R5.4策定)の基盤施設整備の方針に整備が位置付けられている。					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続妥当(兵庫県公共事業等審査会 令和6年11月18日)					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
周辺環境等に特に変化はない。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
鉄道事業者等関係者と構造形式や施工方法などの検討を進めている。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
加古川市や鉄道事業者と連携しながら、都市計画決定に向けて着実に取り組む。					
施設の構造や工法の変更等					
設計の段階から可能な限り工事費の縮減に努める。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。				

事業概要図



- 凡例 (踏切・道路)
- : 開かずの踏切
 - ◎ : ボトルネック踏切
 - : その他の踏切
 - : 自動車専用道路
 - : 国道
 - : 主な県道

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)